

＜帯広小学校の研修からアプローチする目指す子ども像＞

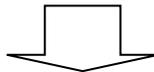
「自分が好き 友達が好き 学校が好き 帯広の街が好きな帯小っ子」

- (1) 対話を通して違いの考えや違いやよさに気付き、自他の思いを大切にできる子ども
- (2) 集団の中で、自分のよさを生かしながら、友達と信頼・協力できる子ども



研究主題

「自己を見つめ、互いを認め合いかわりあう子どもの育成」
～互いのよさや違いを認め合う人間関係づくり～



これを受けて、のぞみ学級(知的障がい学級)では、以下のような子どもの育成を目指す。

＜のぞみ学級の目指す子ども像＞

- (1) 共に学ぶことにより、自己理解・他者理解を高め、いろいろな思いを考えることができる子ども
- (2) 友達や地域社会の人たちと関係性をつくり、共に生きることができる子ども

0 研究主題、目指す子ども像のキーワードと特別支援教育との関連から（道徳的実践力との接点）

●自己を見つめ

→社会の中で生きていくときに、他者とかかわりが重視されているが、他者とかかわりをもつためには、自己を見つめることが重要となる。自己を見つめ、自分の考えや感じ方、思いを明らかにし、「なるほど」「そうだったのか」「自分はこうしたい」などの思いをもち、他者からの評価に対し、耳を傾け、さらに自己を見つめることで、自分というもののよき理解者を自己の中にも存在させることが大切である。

●違いを認め合う

→人には違いがあるのがあたりまえであり、違いをもっているからこそ、多様性である。必要以上に形式的平等重視に陥らずに、自己理解をベースに、ゆるぎない自己肯定感を高めた上で「違っていい」ことや、その違いを認め、その人のよさに気付く力を育てていくことが大切である。教師自身の価値観の転換、子どもへのかかわりについても「一人一人に応じて」を大事にしていくことが必要である。

●共に生きる 共生社会の構築に向けて…

→自分を取り巻く家族、友達、学校や地域の人とかかわりの中で生きている。「人も生き、自分も生きる」という意識に立つことが大切である。将来的には、自分で自立しながら、相手を思いやり、共に生きていく子どもを育てていくことが求められる。このことが、インクルーシブな社会、インクルージョンをめざすことにつながることになると思われる（排除しない、仲間外れにしない・・・）。

1 のぞみ学級の研究について

(1) 今日の特別支援教育の課題から

平成19年4月より特別支援教育が本格的に制度化されて8年が経過した。従来の特殊教育で進められていた理念が、通常学級においても支援を要する児童生徒に対して適切なサポートを進めていくことが浸透してきている。

特別支援教育の理念は「子ども一人一人の教育的ニーズに応じた教育」であり、将来の社会参加に向けて、生きる力を育むことを目的としている。さらに社会環境の整備を図ることで、インクルーシブな社会を構築していくことが強く求められている。

こうした中、全国的に見ても特別支援学級・特別支援教育諸学校の在籍する児童生徒の増加に伴い、特別支援諸学校・特別支援学級が急増している。帯広市においても同様の傾向にあり、ほとんどの小・中学校において特別支援学級が設置されてきている状況にある。

また、幼児児童生徒の障害の重度・重複化、発達障害を含む多様な障害に応じた指導を充実するために、他者とのかかわりの基礎に関することから集団への参加の基礎に関する内容とする「人間関係の形成」の項目が重視されている(自立活動)。学校生活においては特に集団への参加を適切に促し、一人一人の教育的ニーズを的確に把握しより充実した教育実践・支援のあり方が将来的な社会参加・社会自立につながっていくものと思われる。

(2) 本校の特別支援学級(知的学級)の児童の実態から

本校の特別支援学級は知的学級・情緒学級が設置され、この他に通級指導教室としてことばの教室が設置されている。

知的学級は主に知的な面に課題のある児童、情緒学級が主に情緒面に課題がある児童が中心とはなっているが、障害の重度・重複化、発達障害など様相としては多岐にわたっている。また、発達段階においてもそれぞれ差があったり、個人内差もみられたりするなど、指導形態・指導内容において工夫が必要となってくる。

今年度の知的学級は、1年生から3年生までが7名、6年生が1名と低学年に在籍児童が多い構成となっている。

個別・小集団、比較的大きな集団、通常学級における学習(交流学习など)様々な学習場面が展開されるが、共通の課題としては子どもたちの主体性である。子どもたちが意欲的に参加できる授業のあり方、授業づくりを今後も検討していくことが必要である。

(3) 昨年度までののぞみ学級の研究課題から

昨年度までの特別支援教育ブロックでは「確かな学力を身に付け、自ら未来を拓く児童の育成」～自分の考えや思いを表現することができる子どもを目指して～という研究主題を設定して実践研究を進めてきた。

この中で研究仮説を2つに設定し、主な観点として、「教育的ニーズに応じた支援の在り方」と「自分の思いをもち表現し伝える力」に焦点を当て取り組んできた。

2年間の研究の成果として、教育実践発表会(公開研)、校内授業研を中心とした授業づくりでは、教材・教具の工夫や子どもの興味・関心のあるものを題材に授業に盛り込むなど、授業の中身がより子どもの実態からスタートすることができた。また、授業展開の工夫(小集団・個別・学年を考慮したグループ別の指導、見通しがもてる授業のあり方など)により、自主的に取り組んだり、生き生きと活動したりする場面が出てきた。

「自分の思いをもち表現し伝える力」については、子どもの課題(役割分担)を明確にしたり、教師の働きかけの明確化を共有することにより、子どもたちの様々な力を発揮させることができた。

一方で、課題としては、前述した成果を継続的に取り組むことや見通しをもたせるための授業展開の工夫・改善、発達段階や興味・関心の差がある中での教材・指導方法の工夫・改善、合わせた指導と教科との関連などがあげられた。

また、地域・社会とのつながりとして、3年前から取り組んでいるカレンダーの配布、新聞の配布などの活動も徐々に広がりつつある。地域に情報発信していくことにより、子どもと大人の関係性が深まってきている。卒業後に地域で生活することを視野に入れながら、より地域の力を高めていくかという観点からも、この活動は今後もさらに充実させながら展開していきたいと考える。

(4) 本校の研究主題「自己を見つめ、互いを認め合いかわりあう子どもの育成」から
本校の研究主題から、特別支援教育の研究との関連・整合性について

- ・「自己を見つめ」→「自己理解」
- ・「互いを認め合う」→「他者理解」→「多様性（価値観）」
- ・「かわりあう」「人間関係づくり」→「関係性」「つながり」

以上、上記の4つの観点から、「自己理解」「他者理解」「多様性」「関係性」「つながり」をキーワードに、子どもたち一人一人が生き生きと学校生活を送れるようにつなげていきたい。

さらに、子どもたちの最終的な目標は「社会自立・社会参加」である。子どもたち一人一人のニーズに応じた教育から豊かな学習活動を展開し、「地域社会」につながる取組をさらに進めていきたい。

(主題設定の理由の構造図 図2参照)

(5) 研究主題にアプローチする手段としての学習活動 ～生活単元学習を中心に～

のぞみ学級では、領域・教科を合わせた指導として「日常生活の指導」「生活単元学習」を、様々な学習形態で取り組んでいる。

「生活単元学習」とは、生活そのものを有効な教材と捉え、一定期間あるテーマに向けて取り組む学習活動で、各領域・教科の内容が含まれる。ただし、領域・教科の内容を習得させるための手段ではなく、生活上の課題を成就するための活動である。

のぞみ学級の生活単元学習では、学校生活・行事・季節・調理・遊び等をテーマにして単元を計画し、授業を行っている。生活単元学習では、生活する中で処理しなければならない課題を解決する力を育てたり、生活に必要な力を身に付けたりすることを目指している。生活に必要な力としては、研究主題に含まれる文言も関連するものであり、「自己理解」「他者理解」「多様性」などの項目も扱っていききたいと考える。

なお、生活単元学習の授業の展開については、下記の流れを大切にしながら取り組んでいくものとする。

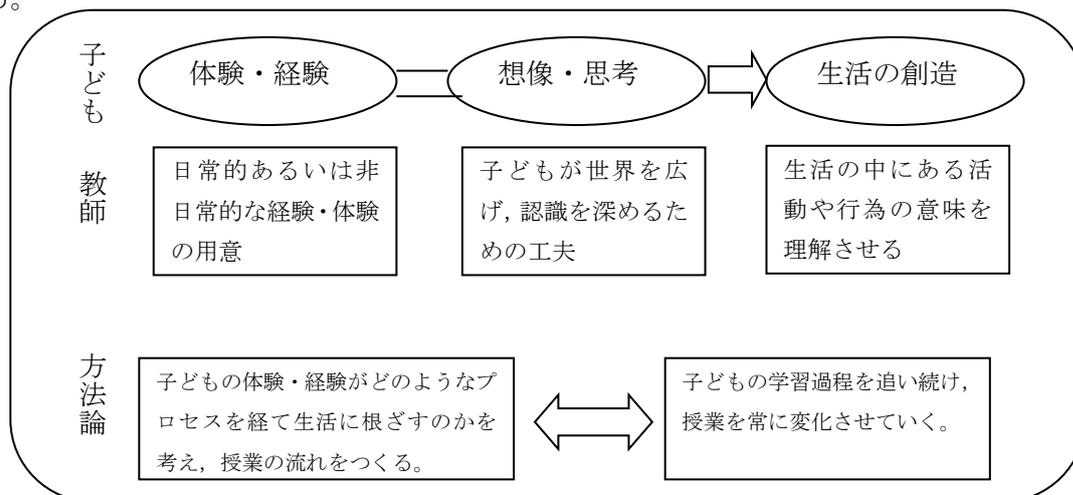


図1 生活単元学習の授業展開

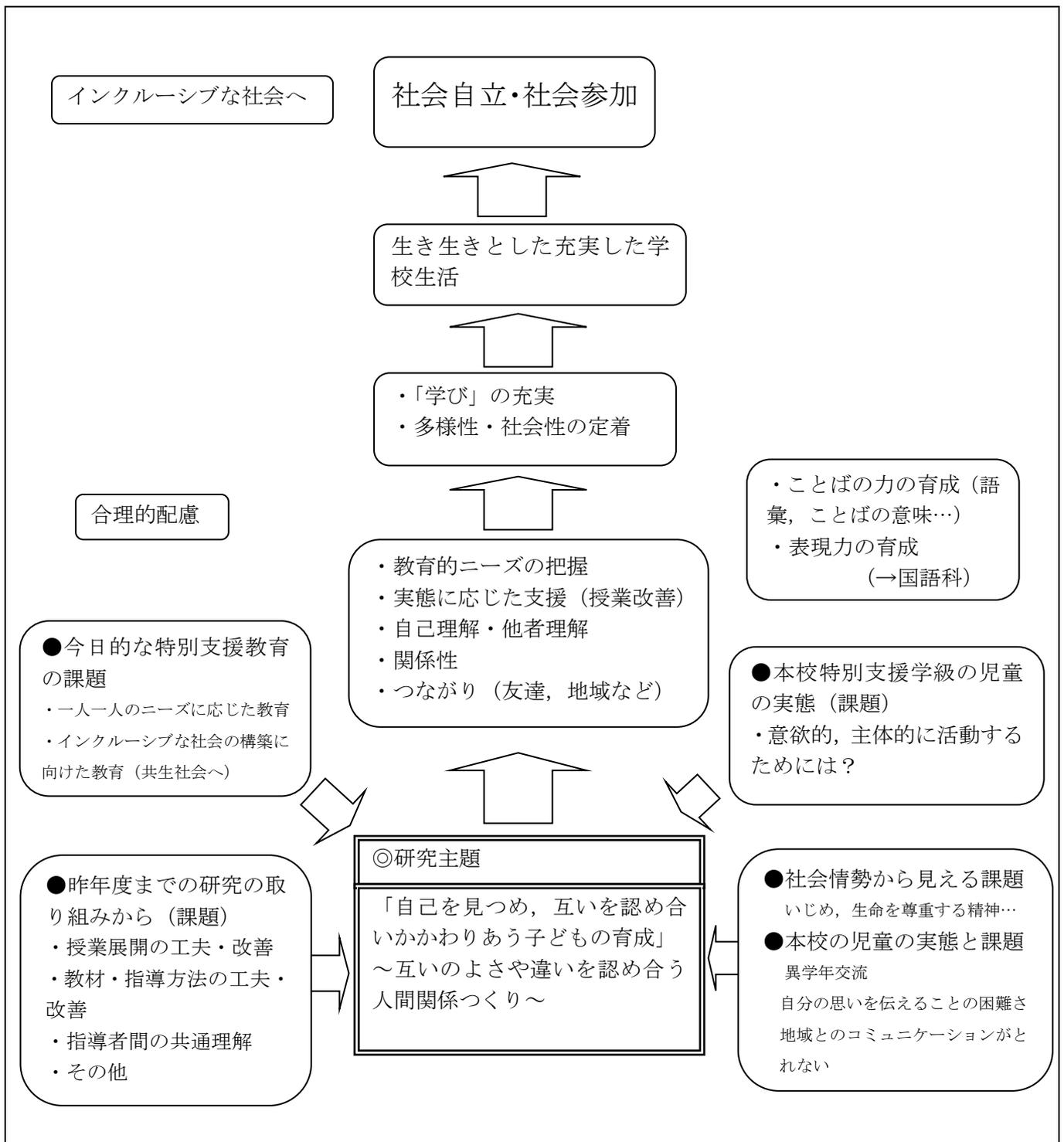


図2 のぞみ学級の研究主題の構造図

2 研究仮説

● 仮説 1

児童一人一人の教育的ニーズを把握し、実態に応じた支援を工夫することで、意欲的に学習に取り組み、生活に必要な力が高まる。

● 仮説 2

様々な人との交流の機会を広げることで、自己理解につながり、他者との違いを認識しながら、関係性をつくることができる。

3 研究内容

| | |
|---|---|
| <p>● 研究内容 1</p> <p>意欲的に活動できる授業, 生活力を高める授業のあり方</p> <ul style="list-style-type: none">・ 学習環境, 教材・教具の工夫および改善・ 学習展開の工夫・改善・ 具体的な指導事例・実践の積み重ね | <p>● 研究内容 2</p> <p>自分の思いの表出, 他者への理解につながる工夫と展開</p> <ul style="list-style-type: none">・ 語彙の獲得・ 個に応じた表現方法の展開・ 表現する場の設定 |
| <p>◎授業づくりの視点</p> <ol style="list-style-type: none">1 児童の実態に応じた課題の設定2 見通しをキーワードとした学習展開3 主体的に活動できる学習内容の構築 | <p>◎自己理解・他者理解についての視点</p> |